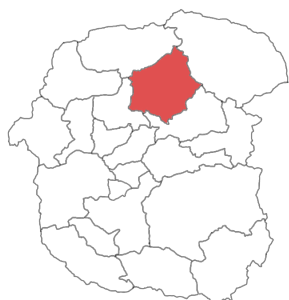




9 区 | 宮 内 行政区

地理



草野行政区の北に位置する。平野部の草野行政区と山間部の佐須・大倉行政区との間に位置する行政区である。草野に向かって広がるデルタ地帯を成しており、水田が広がっている。

文化・生活

震災直前の2010年頃は約280人が住んでおり、60世帯ほどが農業に従事していた。稲作や花卉栽培の兼業農家が多かった。さらに昔は畜産、葉タバコ、養蚕、炭焼きを行う人もいた。

避難指示解除後、若者は戻ってきていない。避難の期間が長かったため、避難先での生活に慣れて近所づきあいができ、子どもが避難先の学校に通うようになると、飯舘村に戻ることは難しいのが実情である。また、福島市や南相馬市などとの2拠点で生活する人も多い。帰村した住民は高齢のため営農再開はしていないが、農地中間管理事業に取り組んでいる。



中川喜昭 前行政区長

川俣高校を卒業後、新卒で役場に就職し、定年まで村役場に勤めた。2024 年まで宮内行政区長を務め、現在は飯舘村の副村長を務める。

震災直後の 2011 年 5 月に復興対策課長に就任し、役場機能の移った福島市飯野町に勤めていた。避難指示解除前から村に通い、除染に向けた実証を行った。

行政区長の思い：

行政区の絆を再生したいという思いで活動した。綿津見神社の例大祭は伝統芸能の練習・発表の機会となっている。後継者不足が深刻であるが、継承していきたい。



大東勇 行政区長

兼業農家の生まれ。高校卒業後は農協に勤め、55 歳で選択定年制を活用して退職。就農を考えていたが、持ち前の自然地理や農地の知識を買われて村役場から要請があり、20 年ほど多面的機能保全会（2025 年 9 月現在）の事務局長を務めている。

行政区長の思い：

帰村者が半分程度にとどまり、行政区運営も大変となっているが、行政区長として住民のためにどのような活動ができるか思料している。

交流の機会として、震災前は区長杯と呼ばれる運動会を年に一度行い、午前中は班対抗の競技をし、午後は集まって豚汁を食べた。震災後しばらく開催を取りやめていたが、2023 年に再開した。震災前の住民たちが一堂に会する貴重な機会である。人口減少のため、班対抗の競技ではなくパークゴルフをする。その他、村道や県道の缶拾いなど、美化活動も行っている。

隣接する草野行政区とのかかわりが深く、古くは一体であった。人口増加に伴って 100 年ほど前に分離し、以降コミュニティの活動は別個で行われているが、牧草地管理などの

整備活動に関しては両行政区が合同で組合を組織している。草野の名が大字として残っているように、草野の分家のような存在である。

祭りは、春は五穀豊穡を祈願する綿津見神社例大祭、秋は五穀の収穫に感謝する白山神社の祭礼が行われる。綿津見神社の例大祭は、7つの行政区の氏子が持ち回りで取り仕切る。宮内行政区は「宮内笠踊り・手踊り」「宮内宝財踊り」という 2 種類の踊りを奉納する。一方で白山神社の祭礼は、草野・宮内両行政区の氏子による小規模なものである。

店 事業所

県道 12 号線が通る草野行政区が商業の中心であったため、震災前から店・事業所は少なかった。

コラム

【宮内の踊り】

宮内行政区に伝わる踊りには綿津見神社に奉納される「宮内笠踊り・手踊り」「宮内宝財踊り」、白山神社に奉納される「三匹獅子舞」の3つがある。

「笠踊り・手踊り」は女性の踊りで、群馬の八木節と歌詞まで同じであるが振りと笠は異なる。2009 年に踊ったのが最後だったが、2024 年に震災後初めて、3 人の新人を含む 7 人が踊った。一方の「宝財踊り」は男性の力強い踊りで、南北朝時代、霊山の城から逃げ出すときに踊ったものと言われる。かつての相馬農業高校飯館分校の生徒は文化祭で踊っていた。

三匹獅子舞は比曽行政区にもあるが、振りが多少異なる。長らく宮内・草野で保存会が組織され、奉納されている。



▲ 宮内笠踊り・手踊りを披露する、宮内にゆかりのある女性たち（中川前区長提供、2024 年 4 月）

人 口

75 人

最新（2020 年）

1983 年 372 人

1998 年 340 人

2011 年 286 人



▲ 郷社であった綿津見神社



▲ 行政区内風景（飯舘村草野字大後）